

## 第7号

発行年月：2013年1月



## 日本医療ソーシャルワーク学会ニュース

## 目 次

- |                                   |                     |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1. 巻頭言 事務局長あいさつ                   | 3. 来年度の大会開催地からメッセージ |
| 2. 理事紹介 ①所属機関 ②学会内での役割            | 4. 研修案内             |
| ③現在、取り組んでいること(研究、実務)              | 5. 事務局からのお願い(会費納入)  |
| ④所属機関および地域で取り組んでいる<br>(力を入れている)こと |                     |

## 1. 事務局長あいさつ

事務局長 加藤 洋子(兵庫大学)

私は、長い間川崎市の行政マンそして、重症心身障害児・者施設の医療ソーシャルワーカーとしても務めました。幼くして命尽きた子どもや障害者とその家族たちに寄添い、その年齢その瞬間、その方らしい人生の尊重がいかに重要であるか、残された家族の人生においても医療ソーシャルワーカーの介入が、いかに重要であるかなど、多くの事を若い人たちが障害のある方々やそのご家族の方々からまたは、仲間から学ばせて頂きました。

その当時の川崎市は、市職員になった後に社会福祉主事任用資格研修を受けて、ソーシャルワーカーをしていましたから社会福祉の専門教育を受けてきた人は極少ない状況でした。

川崎市でも重症心身障害児・者施設の建設や障害者支援体制の改革に向けて大きく変わろうとする時代でした。指定管理者制度の導入やリハビリテーションセンターの再編成と言った自治体として新たな障害者支援方策を具現化する時期でした。川崎市では、重症心身障害児施設がなく、他府県にショートステイや入所をお願いする状態で、利用者にもご家族にも先行きの見えない在宅生活だったと思います。

また、大病院の医療ソーシャルワーカーは、脳死状態の子どもや多くの医療が必要な子どもを抱え退院する障害児とその家族の不安と苦悩に応えどのように支援をしていったらよいか苦慮していました。保健所や地域療育センターや受け皿側も病院が退院時の病状だけを知らせてくれることも稀で、連携が取れない状況でした。公的機関も医療ソーシャル

ワーカーの個人の裁量に委ねられ、社会資源も少ない中で、在宅支援は滞っていました。そういった中で、インフォーマル支援として医療付きレスパイトケアを作り15年目を迎えます。

地域連携を含め、高齢社会を迎え、急性期と言われる期間も短縮されるでしょうし、今後さらに在宅医療が大きく期待されることでしょう。基幹型相談支援事業所との連携や公的機関との連携、自立支援協議会などへの参加など、院内の業務だけではマネジメントができなくなります。平成26年度からの障害者総合支援法・介護保険制度・医療保険制度の改変・整備により、医療ソーシャルワーカーの役割についても、先行き不透明です。

このような時期だからこそ、新たな情報収集と暗黙知となっている医療ソーシャルワーカーの専門性を追求し、専門認定資格に向けて動き出し専門のソーシャルワーカーの養成につなげていく必要がでてくるでしょう。多くの課題を多角的な視点から少しずつ皆さんと本学会の中で議論し、ご一緒にソーシャルワーカーの力として培っていきましょう。どうぞよろしく申し上げます。

## 2. 理事紹介

2012年7月8日に開かれた、第3回日本医療ソーシャルワーク学会 通常総会において、役員体制が変わりました。新理事を紹介させていただきます。

- ①名前、②所属機関および部署（役職など）、③学会内での担当部署・役割、  
④所属機関および地域で取り組んでいる（力を入れている）こと

①村上 須賀子(むらかみ すがこ)

②兵庫大学 生涯福祉学部 社会福祉学科 教授

③会長、出版部主担理事、出版事業主担理事 広報担当主担理事 将来構想担当理事

④(1)学会初の出版事業として「医療ソーシャルワーカーの力—患者と歩む専門職—」(学会価格2000円)を医学書院出版サービスから出版いたしました。自費出版したため300万円の請求書が常に私の脳裏にあります。ご購入協力を再度お願いいたします。

(2)学会事業の初めての試みとして教育機関と協働しての地域貢献に取り組んでいます。

兵庫大学附属総合科学研究所生涯福祉教育センターと共催し「満足のいくケアプランを立てていますか？」とのテーマでケアマネジャー・スキルアップ講座(7回)を2012年12月から2013年2月までの週末で実施しています。主要講師の竹内副会長・加藤事務局長共々超多忙に拍車がかかっています。

(3)兵庫大学社会福祉学科は定員確保に苦慮しています。10月末「社会福祉学科学生確保のための特別委員会」なるものが発足し、私が委員長で、これまた竹内副会長・加藤事務局長も主要メンバーということで、超多忙に、またまた超拍車がかかっています。「頼もしい実践家養成の機関」を絶やさないための全力投球です。一新なった大学のホームページでMSWとして送り出し、学会員でもある卒業生をご一見あれ。

\*\*\*

老い先短い人生をMSWに捧げている身の自己紹介です。

①大垣 京子(おおがき きょうこ)

②福岡医療福祉大学 人間社会福祉学部 教授

武田内科 医療ソーシャルワーカー(非常勤)

③副会長(会長代行)、調査・研究主担理事(退院支援)

④週に一度クリニックでMSWとして働いています。時々、こんなことでMSWは生き残れるのだろうかと思うことがある。たとえば、かかりつけの患者家族から「入院しているけど退院といわれた。家ではまだ生活できない、次にどうしたらいいのか分からない。MSWにあったけど、自分たちで探してください、といわれて困っている。」あるいは、ある急性期

のMSWは、患者や家族に会わないで医師や看護記録だけの情報だけで転院の相談をしてくる。在宅医療連携が言われている昨今、わたしたちは専門家チームの一員として地域の人々を支援することができるだろうか。地域の中でMSWが存在意義を示すために、そのようなMSWに接して、どうしたらいいのか働きかけている。

①奥村 晴彦(おくむら はるひこ)

②大阪社会医療センター附属病院

③副会長、教育・研修(大会・研修主担理事)、  
将来構想担当

④所属している病院は大阪市西成区のあいりん地域にある無料低額診療施設です。

日雇労働者をはじめ生活困窮者が多く来院しますので、貧困問題と生活保護関連のソーシャルワークを研究テーマにしており、地域での社会貢献やネットワーク作りを通して、生活に困窮しているクライアントの生活者の視点に立てよりよい生活ができるように支援できれば良いと考えています。

①竹内 一夫(たけうち かずお)

②兵庫大学健康科学部看護学科 教授

③副会長、事務局主担理事、教育(スーパービジョン担当)、  
将来構想担当理事

④社会福祉専門職の指導者養成(スーパーバイザー養成)と、利用者への援助の資質向上について、いくつかの社会福祉専門職の方々と集まりをもって、継続的に指導者養成と自己研修の有効な在り方について研究と勉強を重ねています。

また、最近とみに増加してきているといわれている発達障害の子供や親たちへのカウンセリングによる支援に取り組んでいます。公的な機関での支援が十分でなく、また、対応してくれる医療機関も少なく、親御さんたちも困っておられ、今後どのように支援につなげていくかに悩んでいます。

全く個人的には、新しい職場で、新人として、一からの居場所づくりに取り組んでいます。

- ①森崎 千晴(もりざき ちはる)
- ②廿日市市障がい福祉相談センターきらりあ
- ③事務局(財務担当)
- ④以前は病院相談室で医療ソーシャルワーカーとして働いておりましたが、現在は同法人内の障害者相談支援事業所の相談支援専門員として相談支援業務に従事しています。いろいろな方々の生活の一場面にふれ、いろいろな思いにふれ、日々学ぶことばかり。10人10色の価値観と生活スタイルがあることをあらためて感じています。“自分磨き”の毎日です。

- ①徳富 和恵(とくとみ かずえ)
- ②安芸太田病院(地域医療支援室内 居宅介護支援事業担当)
- ③事務局(会員管理担当)
- ④過疎地域とよばれ高齢化率45%弱の町にある病院に勤務しています。救急から在宅のかかりつけ医までの機能を期待され、病床は急性期、療養型、精神科病床(認知治療病棟)を持ち広島県北部の基幹病院としての位置づけにあります。ケアマネジャーとしての任では、若い時から障害を持ち高齢期に突入した方に関わる機会も多いのですが、最近また一段と気になるのは社会資源の不足もさることながら「当たり前」に暮らすことへの理解を求めることも難しさです。本当の「自立支援」とは「自己責任に還元すること」ではない、と復唱しながら業務を続けていきたいと考えています。

学会では今年度から会員名簿管理を担当しています。異動がございましたら事務局までおしらせください。皆様に学会ニュースや各種案内をお送りするものになる大切な名簿とこころえ、送付の手違いがないように努めていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

- ①野田 秀孝(のだ ひでたか)
- ②国立大学法人富山大学 人間発達科学部 准教授
- ③倫理委員会委員長、教育・研修(養成研修担当)
- ④国立大学法人富山大学人間発達科学部は、2005年10月に、富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学の3つの大学が合併し新富山大学の誕生とともに、教育学部を改組して発足しました。教育学部であったころの教員養成に軸足を置き、教員養成だけでなく、人間発達=Human Developmentの可能性に着目した人材の養成を行うことを目的としています。学部の中で、社会福祉学を中心とする部門は、とても小さく、学生定員10名で、ひっそりと社会福祉士受験資格が習得できる養成校を兼ね生息しています。あまりにも弱小部門なので、目標は「生き残る!!」かなということかと、頭の隅をかすめながら、学生指導に励ん

でいます。富山県には、大学も少なく、当然研究者も少ないので、様々な社会福祉分野において、地域社会に貢献できるように考えていますが、肉体的精神的な限界もあることから、「がんばろう!」のスローガン倒れにならないように気をつけています。

学生に支えられながら(?笑)激務に耐え、富山湾の新鮮な魚介類と、おいしいお酒を堪能する日々です。太平洋側で生まれ育った私としては、日本海側の気候になれることができずにいますが、富山は良いところなので、お立ち寄りの際には是非、一緒に呑みましょう!!

- ①横山 豊治(よこやま とよはる)
- ②新潟医療福祉大学社会福祉学部教授
- ③教育主担理事(養成課程担当)、調査・研究(養成課程担当)
- ④昭和から平成にかけて石川県のリハ病院と静岡市の総合病院でMSWとして働き、平成6年からは社会福祉士の養成教育に従事するようになりました。大卒者を対象とした通学課程(社会福祉士一般養成施設)を持つ専門学校で専任教員を経験した後、21世紀の始まりとともに開学した現在の職場に勤めて12年目になります。

ゼミでは「医療福祉援助の対象者理解と支援」というテーマで、様々な疾患・障害の当事者が抱える生活問題への理解を深めるような学習活動に取り組んでいます。

現役のMSWの頃、資格制度化運動の一端に関わって以来、ソーシャルワーカーの資格制度や任用促進をめぐる問題に強い関心を向ける一方、日本社会福祉士会で最初の生涯研修制度の立ち上げと運営に数年間関わったことを契機として、ソーシャルワーカーの成長や力量形成過程にも研究上の関心を向けるようになりました。近年は、「ソーシャルワークの伝達可能性」を追究する観点から、フィクション作品におけるソーシャルワーカー像の描き方なども研究対象としています。

長時間の段階的、実践的な実習を含めた専門教育を経て国家資格を取得して勤め始める医療技術職に比べて、MSWの養成教育はまだまだ不十分だと考えており、その確立に向けた研究を前進させることも当学会の課題ではないかと思っています。

①和田 光徳(わだ みつり)

②市立岸和田市民病院 医療相談(ケースワーカー)室室長

③地区研修担当、学会誌担当理事

④当院は、大阪南部、泉州地域と呼ばれる岸和田市の公立病院です。年間救急搬送件数5700件、平均在院日数13日ほどの、350床を有する地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院として活動しています。MSWは平成6年に初めて看護局に配置され、現在は医療技術局配置、常勤4名(精神保健福祉士3名、社会福祉士2名(1名重複取得))という人員構成になりました。時代の趨勢にご多聞に漏れず、地域医療センター兼職です。詳しく経過を言えば、平成12年当時、精神科医師を直属上司とする旧医療相談室は、地域医療センターと吸収合併し、業務比重を精神科から、地域医療連携にシフトさせました。それは、MSW自らの、院長への企画書から始まりました。時を経て、時代は地域医療連携真っ盛りです。社会福祉士による退院調整加算もつきました。でも、“医療ソーシャルワーカー”は、医事点数上、その存在をなくしました。本年4月、地域医療センターに吸収されていたMSWを、12年ぶりに新医療相談室として復活させました。兼職とはこの経過によるものです。今日(12/22)、病院機能評価サーベイヤーより、当院の「地域医療センターを大いに評価します」とお言葉をいただきました。地域医療センターに、MSWはなくてはならない存在になりましたが、MSWが担う仕事でもなくなりました。「力をいれていること」かぁ〜・・・次は何をしよっかな!

①中川 美幸(なかがわ みゆき)

②早良病院 医療相談室・地域連携室

③地区研修担当

④地区研修会では、医療ソーシャルワーカーが共に成長することのできる魅力的な研修を企画していきたいと考えていますので、皆さまのご参加、心よりお待ちしております!

また、所属機関の中では、平成19年から毎月開催している「西区医療ソーシャルワーク研究会」の企画を、早良病院の医療相談室が事務局となって行っています。この研究会は、MSWだけでなく、「クライアント中心の支援を行いたい」と考える地域のケアマネージャーさんや福祉行政の方なども参加して行っているのが特徴です。

このように研究会を企画していることが、地区研修会の担当としても役に立っているように感じています。

これからも、微力ながら学会の運営をお手伝い出来るよう頑張りますので宜しくお願い致します。

①黒岩 晴子(くろいわ はるこ)

②佛教大学社会福祉学部 教授

③学会誌主担理事

④研究・教育活動においては、原爆投下の事実と被爆者の実態、被爆体験の継承活動、被爆者の支援を重視しています。また、脱原発、非人道的な核兵器の廃絶や平和活動、ボランティア活動、等々、アカデミックといえないかもしれませんが、ソーシャルアクションに力を入れています。その活動は学生と一緒に被爆者や地域の方々と協働で行っています。春と秋は佛大9条の会の集いや映画会、夏は原爆展、秋は児童図書展(ハローディアエネミー展&世界のバリアフリー絵本展)等々です。授業には被爆者を招聘しその体験と生活史をお聴きし、子どもたち向けに絵本や紙芝居など児童文学作品として残す試みも続けています。

①田中 剛(たなか つよし)

②医療法人恵生会 恵生会病院 地域連携課

③学会誌担当 理事

④一般と療養の病棟を有している職場で、尚且つ連携業務もしている部署に属しているので、日々目の前のケースに対応していく事で精一杯になりがちですが、その中でもソーシャルワーカーとしての姿勢を崩さずに「ソーシャルワーカーとはどういった存在なのか」を相談に来られる人は勿論の事、院内スタッフにも正しく浸透するように啓蒙していく事を考えながら、業務に臨んでいます。(当院はソーシャルワーカーが配置されて15年になりますが、医師や他のスタッフの入れ替わりの度に認識が曖昧になる傾向がある為、それを繰り返しているのが現状です。)

また、地域で開かれる会議などには出来る限り参加し、他機関や地域の方と顔の見える関係が作れるようにと心掛けるようにしています。

## ①加藤 由美(かとう ゆみ)

## ②下記を兼務しています

東北文化学園大学大学院 健康社会システム研究科 教授

東北文化学園大学 医療福祉学部保健福祉学科 教授

## ③調査研究(退院支援担当)

役割：調査・研究の計画策定、実施、分析、学会での報告、学会や学術誌等への発表

## ④(1)退院支援に関する研究

退院支援について、業務分析、評価の視点・項目・基準・方法、養成・研修などを多面的に研究しています。

## ④(2)透析医療におけるバスキュラー・アクセス(VA)関連事故の研究

透析医療におけるVA関連事故の実態に基づき、事故の発生要因や予防策について研究しています。

## ④(3)地域での取り組み

「医療福祉研究会」のスーパーヴァイザーとして、仙台市内および周辺地域の若手MSWと一緒に月1回の勉強会を10年来続けています。テーマはその都度メンバーのニーズに応じて設定しており、具体的には事例研究、ロールプレイ、業務上の情報交換、制度研究、ゲストを招いての講演など多岐にわたります。この研究会は、①実践と教育研究の融合、②現役MSWの研鑽、③卒業生等に対するリカレント教育、④MSWを志す学生に対するキャリア教育など重層的・複合的な役割を果たしており、私自身にとってもかけがえのない財産となっています。

## ①品田 雄市(しなだ ゆういち)

## ②東京医科大学病院 総合相談・支援センター

医療福祉相談係長

## ③調査・研究担当(養成課程)

## ④当院は、医療機関における教育病院・特定機能病院として高度な医療を提供する中で、特に救命救急センターをはじめ、エイズ診療拠点病院・地域がん診療連携拠点病院など医療圏における研究・診療の中心を担っており、地域に主眼を置いた医療活動と展開が期待されていると言えます。

ソーシャルワーク部門は、在宅療養支援・転退院支援・がん相談支援を展開することで社会的包摂を実現する様々な対応が求められていると言えます。例えば、虐待や経済的格差、介護をめぐる患者・家族の苦悩は人々のいのちや暮らしに深く影響し、医療と社会経済、医療と社会福祉が複雑に絡み合っていることを示しています。

医療現場において社会福祉の専門性を発揮し展開される医療ソーシャルワークは、単に医療現場に持ち込まれた社会問題への対処に加え、所属機関が持つ各々の特性や地域

から期待されている機能を存分に発揮するための戦略的な対策を立案し、地域社会とともにある病院像の確立に寄与できる可能性を持っています。

私は今、地域がん診療連携拠点病院に必置のがん専門相談員の業務に就いていますが、院内のみならず全国・海外からも寄せられるがん相談の1つひとつへの対応を通じて、この国におけるがん治療が十分に人々の手に届かない歯痒さすら感じています。持ち込まれた相談の中に、社会的な取り組みの必要性を痛感し、ソーシャルワークがいかに貢献できるのかを模索している日々です。

## ①中村 勇気(なかむら ゆうき)

## ②東京海上日動調査サービス株式会社

## ③広報

## ④昨年まではMSWとして勤務していましたが、今年度より現場へ転職しました。弊社は東京海上日動社の関連会社にあたり、主には交通事故被害者の病状確認等を医師へ行うことや、被害者の方へ社会福祉制度の活用をご提案する等、事故解決に向けた取り組みを東京海上の担当者と共に業務を担っています。

私は被害者支援には保険会社と医療機関との連携が重要だと感じています。事故に遭った被害者は、今までとは違う新しい生活を送らざるを得ない状況にあります。病的には退院できても、生活が構築できなければ安心して退院することはできません。そのような中でMSWは退院援助や経済的支援を行います。私は、生活を支援する専門職であるMSWと保険会社が連携することで交通事故に遭ったひとりの人が、より良い生活が送れるように保険会社の立場から共に働きかけを行っていく存在でありたいと願います。



- ①三原 博光(みはら ひろみつ)
- ②県立広島大学保健福祉学部 教授
- ③国際活動部主担理事

④現在、大学で力に取り組んでいることは、次の2つです。

- (1)ドイツの大学との国際学術交流に力を入れていること、
- (2)知的障害者の就労支援活動、です。

(1)ドイツの大学との国際学術交流では、県立広島大学とドイツNRWカトリック大学が2010年に国際学術交流協定を結び、これ以後、学生と教員の交流が活発に行われています。この国際交流を単に訪問の交流だけに終わらせず、共同調査、それぞれの国の医療福祉機関での実習と実習単位の認定などの実績が残るものを目指すような取り組みをしています。この学会でも、ドイツの病院のMSWと共同の調査実施ができればと考えています。

(2)知的障害者の就労支援活動では、公立大学での知的障害者の雇用活動を進めています。障害者雇用促進法により、身体障害者は一般事業所でのコンピューターなどの事務的な業務に採用されています。しかし、知的障害者や発達障害者は、一般事業所での採用が困難な状況です。そこで、大学の学生の福祉教育や地域福祉貢献の目的のために、県立広島大学における知的障害者や発達障害者の雇用を進め、学内の簡単な事務作業や清掃などに取り組んでもらおうと思います。

- ①高木 成美(たかぎ なるみ)
- ②広島市立広島市民病院 医療支援センター 総合相談室
- ③広報

④当院の医療ソーシャルワーカーは、がん診療相談室、退院支援室、総合相談室と3部門に分かれて所属しています。

私の所属する総合相談室は、がんと退院支援以外の全ての相談に幅広く対応しています。今年度、新たな取り組みとして、支援を要する児や家族への早期介入を目指し、NICU(新生児集中治療室)の朝の申し送りとカンファレンスに参加しています。NICUは1979年に開設され、広島市内中心部から隣接する市・県からの受診、緊急搬送も多く、医療面では充実した設備があります。しかし、医療ソーシャルワーカーの関与は退院直前からのことが多く、両親の不安に寄り添えていないのではないかという想いが取り組みのきっかけでした。

少ない人数の医療ソーシャルワーカーで、どこまでの患者をカバーするのかということは、どの施設でも課題になっていると聞きます。しかし、人がいないから手が回らないという理由で、ソーシャルワークサービスが行き届かない人がいるとすれば、改善の余地があると想い、時間のやりくりをして、実績を積み上げている段階です。

### 3. 次年度大会開催地からのあいさつ

今年も真冬日(最高気温も氷点下)の季節がやってきました。車も人もツルンと滑って事故にならないように身構えながらの日々の中、12月7日、またも金曜日に大地震がありました。宮城県に津波警報、岩手県などにも津波注意報が発令されましたが、幸い大きな被害はなくて、ホッと胸をなでおろしました。

さて、来年の第4回日本医療ソーシャルワーク学会岩手大会の日時等をお知らせします。

①日時:平成25年10月13日(日) 13時  
～10月14日(月) 12時

②会場:アイーナ(いわて県民情報交流センター)

盛岡市盛岡駅前通1丁目7-1

盛岡駅(西口)から徒歩4分です。

(ホームページ HYPERLINK "http://www.aiina.jp/参照)

岩手県医療ソーシャルワーカー協会 会長 山舘 幸雄

③プログラム:

どんなテーマでどんな内容にするか、現在研修部会員を中心にアイデアを出し合っている最中です。例年通り研究発表(分科会)、MSW現任者に役立つようなワーク

ショップの他に、被災地支援を考えるプログラムも取り入れたいと考えております。詳細が決まり次第、学会ニュース等でお知らせいたします。

どうぞたくさんの方にご参加いただきますようよろしくお願いいたします。



小岩井農場の一本桜と早春の岩手山

### 4. 九州・沖縄ブロック研修会のご案内

九州・沖縄ブロックで研修会を開催します。ブロック以外からの参加もできますので、ぜひご参加ください。詳細は、別紙のチラシをご参照ください。

(1)テーマ:「カンファレンスを考える」

講師:服部文忠先生(長尾病院 院長)、北嶋晴彦先生(大牟田市立総合病院MSW)

日時:2013年2月16日(土)14:00～17:00

場所:早良病院 3F会議室(福岡市西区姪の浜2-2-50)

参加費:学会会員 2,000円、非会員 2,500円

(2)テーマ:「スーパービジョン」

講師:竹内一夫先生

日時:2013年2月24日(日)10:00～16:30

場所:早良病院 3F会議室(福岡市西区姪の浜2-2-50)

参加費:学会会員 3,000円、非会員 3,500円

お問い合わせ:早良病院 MSW 中川美幸

Mail:nakagawa@sawara-hp.jp

Tel:092-881-0735(相談室直通)

## 5. 事務局からのお知らせ

### 【会費納入のお知らせ】

- 今年度(平成24年度)より、年会費が**5,000円**となっております。  
お間違えないよう、お振り込みください。
- 過年度分の年会費納入がお済みでない方がいらっしゃいます。  
個別に振り込み用紙を同封させていただいております。  
お急ぎお納めくださいますようお願いいたします。

郵便振込口座記号番号	：	<b>01760-2-140617</b>
加入者名	：	<b>日本医療ソーシャルワーク学会</b>
納入の際は、通信欄に「平成〇年年会費」とご記入ください。		

財政的に、厳しい状況での学会運営となっております。  
学会事業推進のため、皆様のご理解・ご協力よろしくをお願いいたします。  
ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先：日本医療ソーシャルワーク学会 事務局(竹内・森崎)  
e-mail: takekazu@hyogo-dai.ac.jp Fax: 079-427-9928

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。  
今年の学会は岩手で開催される予定になっています。東日本大震災の被災地であり、復興や余震の不安があるなか、準備をしてくださっている岩手県協会のみなさまに心から感謝申

し上げます。学会の日程も決まりましたので、都合をあわせて岩手でお会いしましょう。

広報担当：高木 成美（広島市立広島市民病院）

発行：日本医療ソーシャルワーク学会  
(The Japanese Society of Medical Social Work)  
編集：日本医療ソーシャルワーク学会 広報担当  
印刷：広島中央印刷株式会社  
事務局：〒675-0195 加古川市平岡町新在家2301  
兵庫大学 生涯福祉学部 社会福祉学科 加藤洋子研究室  
TEL&FAX 079-427-9955  
URL：http://www.jsmsw.jp  
E-mail：jsmsw.secretariat@jsmsw.jp